

10/500104
PCT/JP02/13347
Rec'd PTO 25 JUN 2004
20.12.02

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 5月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-157997

[ST.10/C]:

[JP2002-157997]

REC'D 21 FEB 2003

WIPO

PCT

出 願 人

Applicant(s):

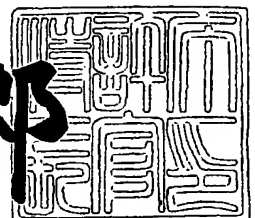
日本軽金属株式会社

**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 2月 4日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3004201

【書類名】	特許願
【整理番号】	P-011940
【提出日】	平成14年 5月30日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	E04F 11/022
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都品川区大崎 1 丁目 1 1 番 1 号 新日軽株式会社内
【氏名】	西本 耐
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都品川区大崎 1 丁目 1 1 番 1 号 新日軽株式会社内
【氏名】	安部 則弘
【発明者】	
【住所又は居所】	静岡県庵原郡蒲原町蒲原 1 丁目 3 4 番 1 号 日本軽金属株式会社 グループ技術センター内
【氏名】	松永 章生
【発明者】	
【住所又は居所】	静岡県庵原郡蒲原町蒲原 1 丁目 3 4 番 1 号 日本軽金属株式会社 グループ技術センター内
【氏名】	田中 清文
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都品川区東品川 2 丁目 2 番 2 0 号 日本軽金属株式会社内
【氏名】	出野 邦雄
【発明者】	
【住所又は居所】	静岡県庵原郡蒲原町蒲原 1 丁目 3 4 番 1 号 日本軽金属株式会社 グループ技術センター内
【氏名】	堀川 浩志

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区東品川 2 丁目 2 番 2 0 号
日本軽金属株式会社内

【氏名】 内藤 繁

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中野区中央 3 丁目 1 番 2 5 号
株式会社エス・デイ設計内

【氏名】 椎名 洋史

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中野区中央 3 丁目 1 番 2 5 号
株式会社エス・デイ設計内

【氏名】 長谷川 常博

【特許出願人】

【識別番号】 000004743

【氏名又は名称】 日本軽金属株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064414

【弁理士】

【氏名又は名称】 磯野 道造

【電話番号】 03-5211-2488

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-108899

【出願日】 平成14年 4月11日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 015392

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9104387

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 階段

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 階段勾配で傾斜する立体トラス構造体で踏板が支持される階段であって、

前記立体トラス構造体は、連結材で互いに連結された二条の上弦材と一条の下弦材とをラチス材で互いに連結して構成され、

前記上弦材および前記下弦材は、複数のフレーム材を連結して構成されることを特徴とする階段。

【請求項 2】 前記連結材に、前記各上弦材に斜交する連結斜材が含まれていることを特徴とする請求項 1 に記載の階段。

【請求項 3】 前記連結材、前記ラチス材および前記フレーム材は、それぞれ両端に接続端部を有し、当該接続端部が嵌合可能な接続溝を外面に備える節点部材を介して連結されることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の階段。

【請求項 4】 前記踏板の側端が壁面に固定されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項に記載の階段。

【請求項 5】 前記連結材、前記ラチス材および前記フレーム材は、アルミニウム合金製であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか一項に記載の階段。

【請求項 6】 前記踏板は、前記上弦材に取り付けられたブラケットを介して前記立体トラス構造体に支持され、

前記ブラケットは、その上面に前記踏板を支持する踏板支持面を有するとともに、その下面に前記上弦材に取り付けられる取付面を有し、

前記取付面は、前記踏板支持面に対して階段勾配で傾斜することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか一項に記載の階段。

【請求項 7】 前記ブラケットは、アルミニウム合金製の押出形材からなることを特徴とする請求項 6 に記載の階段。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、階段に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、階段の踏板の支持方式には、様々な形式のものがあるが、木材や鋼材で階段を構築する場合には、踏板を左右一对の側桁で支持する構造が一般的である。また、側桁は、踏板からの荷重を支持することから、鋼製の階段であれば、溝形鋼やI形鋼といった大型で重厚な部材が使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、側桁形式の階段では、その側桁が重厚であるが故に、搬送及び施工に労力を要し、さらには、重苦しい印象を与えていた。また、側桁の寸法・形状は、階段の段数および階段勾配などの設置条件によって異なるため、設置条件に合わせてその都度生産しなければならず、生産効率が悪かった。

【0004】

側桁形式の階段のほか、踏板をその中央に配置された中桁で支持する形式の階段もあるが、側桁形式の階段と同様に、重厚な部材で中桁を構成するため搬送及び施工に労力を要し、デザイン性も乏しい。

【0005】

そこで、本発明は、軽構造で、軽快な印象を与えることができる階段を提供することを課題とし、さらに、生産・施工効率のよい階段を提供することを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

このような課題を解決するために、請求項1の発明は、階段勾配で傾斜する立体トラス構造体で踏板が支持される階段であって、前記立体トラス構造体は、連結材で互いに連結された二条の上弦材と一条の下弦材とをラチス材で互いに連結して構成され、前記上弦材および前記下弦材は、複数のフレーム材を連結して構成されることを特徴とする。

【0007】

かかる階段は、立体トラス構造体の中桁とした階段である。立体トラス構造体は、上弦材が二条であるのに対し、下弦材が一条であり、すなわち、階段正面方向から観ると逆三角形に形成されているので、すっきりとした外観であり、さらには、軽やかで開放感があるので、居室内に階段を構築しても圧迫感が無い。また、立体トラス構造体の中桁としたので、溝形鋼やI形鋼のような重厚な部材を用いる従来の階段に比べて軽構造であり、施工時の取り扱いが容易になる。さらに、上弦材と下弦材は、複数のフレーム材を連結して構成されているので、連結するフレーム材の数を増減させることにより、容易に階段全体の長さ（段数）を調節することが可能である。また、踏板の中央を支持するので、踏板に生じる撓みが小さい。

【0008】

請求項2の発明は、請求項1に記載の階段であって、前記連結材に、前記各上弦材に斜交する連結斜材が含まれていることを特徴とする。

【0009】

かかる階段によると、上弦材間に斜めに配置された連結斜材により、立体トラス構造体の上面の変形を抑制することができる。すなわち、連結斜材により立体トラス構造体のねじり剛性および左右方向の曲げ剛性が向上するので、階段昇降時に立体トラス構造体に発生するねじれや横揺れを大幅に抑制することができる。

【0010】

請求項3の発明は、請求項1又は請求項2に記載の階段であって、前記連結材、前記ラチス材および前記フレーム材は、それぞれ両端に接続端部を有し、前記接続端部が嵌合可能な接続溝を外面に備える節点部材を介して連結されることを特徴とする。

【0011】

かかる階段によると、連結材、ラチス材およびフレーム材のそれぞれの両端に形成された接続端部を、節点部材の外面に形成された接続溝に嵌合するだけで、前記の各部材を連結することができる。すなわち、溶接しなくても各部材を連結

できるので、階段を容易に構築することができる。

【0012】

請求項4の発明は、請求項1乃至請求項3のいずれか一項に記載の階段であって、前記踏板の側端が壁面に固定されることを特徴とする。

【0013】

かかる階段によると、踏板の側端を壁面で固定するので、踏板の安定性がより一層向上するとともに、踏板の側方に壁面が位置するので、階段の歩行者に安心感を与える。

【0014】

請求項5の発明は、請求項1乃至請求項4のいずれか一項に記載の階段であって、前記連結材、前記ラチス材および前記フレーム材は、アルミニウム合金製であることを特徴とする。

【0015】

かかる階段によると、強度の割に軽量で、腐食しにくいというアルミニウム合金のメリットを活かすことができる。すなわち、階段が軽量になるので、施工時の取り扱いが容易で、また、従来の木造住宅にも容易に適用できる。

【0016】

請求項6の発明は、請求項1乃至請求項5のいずれか一項に記載の階段であって、前記踏板は、前記上弦材に取り付けられたブラケットを介して前記立体トラス構造体に支持され、前記ブラケットは、その上面に前記踏板を支持する踏板支持面を有するとともに、その下面に前記上弦材に取り付けられる取付面を有し、前記取付面は、前記踏板支持面に対して階段勾配で傾斜することを特徴とする。

【0017】

かかる階段によると、ブラケットを上弦材の上面に設置したときに、踏板支持面が水平になるので、踏板の取付作業が容易になり、したがって、施工効率が向上する。

【0018】

請求項7の発明は、請求項6に記載の階段であって、前記ブラケットは、アルミニウム合金製の押出型材からなることを特徴とする。

【0019】

かかる階段によると、強度の割に軽量で、腐食しにくいというアルミニウム合金のメリットを活かすことができる。

【0020】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態を添付した図面を参照しつつ、詳細に説明する。

【0021】

まず、本発明の第1の実施形態に係る階段を、図1乃至図12を参照して説明する。図1は本発明の第1の実施形態に係る階段の全体を示す斜視図、図2は同じく正面図、図3は同じく側面図、図4は図3を拡大した図である。

【0022】

図1乃至図4に示すように、本発明の第1の実施形態に係る階段は、立体トラス構造体10を中桁とした階段であり、階段勾配で傾斜する立体トラス構造体10と、ブラケット11を介して立体トラス構造体10に支持される踏板12とから構成される。また、図3および図4に示すように、立体トラス構造体10は、その下端に取り付けられたサポートシューS1、S2を介して階下の床面F1に固定され、上端に取り付けられたサポートシューS3を介して階上の床面F2を支持する梁材F21に固定されている。また、本実施形態では、踏板12の側端が壁面Wに固定されるとともに、他方の側端に手摺15が取り付けられている。

【0023】

(立体トラス構造体)

図5は本発明の第1の実施形態に係る階段の分解斜視図、図6は(a)は図3のX1-X1矢視図、(b)は(a)のX2-X2矢視図、図7はフレーム材、連結材およびラチス材を示す図、図8は連結部材たるハブを説明する斜視図、図9は同じく平面図である。

【0024】

立体トラス構造体10は、図5および図6に示すように、互いに平行な二条の上弦材10A、10Aと、上弦材10A、10Aを互いに連結する連結材3と、上弦材10A、10Aの中間の下方に位置する一条の下弦材10Bと、上弦材1

0 A、1 0 Aと下弦材1 0 Bとを互いに連結するラチス材4 とから構成される。

上弦材1 0 A、1 0 Aは、それぞれ節点部材たるハブ2 Aにより連結された複数のフレーム材1 により構成され、下弦材1 0 Bは、ハブ2 Bにより連結された複数のフレーム材1 により構成されている。

【0 0 2 5】

なお、上弦材1 0 Aを構成するハブ2 Aと下弦材1 0 Bを構成するハブ2 Bは、同一の構成であるので、説明が重複する場合は、適宜符号「2」を付す。

【0 0 2 6】

フレーム材1 は、断面円形のアルミニウム合金製の中空押出型材を加工したものであり、図7 (a) (b) に示すように、その両端に偏平状の接続端部1 aを有している。また、接続端部1 aの先端には、フレーム材1 の軸線に直角する方向に凹凸が形成されている。

接続端部1 aは、中空押出型材の両端をプレス加工などにより押し潰すことにより形成される。なお、接続端部1 aは、ハブ2 の軸線方向に長い偏平状に形成されていることから(図8 参照)、ハブ2 の軸線方向の外力に対しては、強度的に強いピンジョイントが形成されている。

【0 0 2 7】

ハブ2 は、図8 に示すように、円柱形状であり、アルミニウム合金製の押出型材もしくは鋳造品からなる。ハブ2 の外周面には、複数の接続溝2 aがハブ2 の軸線方向に沿って形成され、ハブ2 の中心には、ボルト挿通孔2 bが形成されている。

接続溝2 aは、フレーム材1 の接続端部1 aが嵌合可能で、その内壁面には、接続端部1 aの凹凸と係合する凹凸が形成されている。また、本実施形態では、8つの接続溝2 aが4 5度ピッチで形成されている。

また、接続溝2 aのうち、フレーム材1、連結材3またはラチス材4 が接続されないものには、接続溝2 aと同一の寸法・形状を有する溝埋部材2 eを挿入する。また、本実施形態では、ハブ2 の接続溝2 aの長さをラチス材4 の接続端部4 aの長さに合わせてあるので、例えば、フレーム材1 をハブ2 の下端まで挿入すると、その上方には隙間が生じる。この場合には、フレーム材1 の接続端部1

a の上方に溝埋部材 2 f を挿入して、フレーム材 1 の接続位置がずれないようにする。

【 0 0 2 8 】

ハブ 2 にフレーム材 1 を接続する場合には、フレーム材 1 の接続端部 1 a に形成された凹凸をハブ 2 の上面側（あるいは下面側）から接続溝 2 a に圧入嵌合すればよい。また、図 9 に示すように、接続溝 2 a と接続端部 1 a の各々に形成した凹凸が互いに係合するので、フレーム材 1 がその軸線方向に引き抜かれることはない。

なお、ハブ 2 の形状や接続溝 2 a の個数などは、ハブ 2 に接続される部材の本数や角度に合わせて、適宜変更しても差し支えない。

【 0 0 2 9 】

また、下弦材 1 0 B を構成するハブ 2 B の上下面には、図 8 に示すように、フレーム材 1 およびラチス材 4 の抜け出しを防止するためのワッシャ 2 d が取り付けられる。ワッシャ 2 d は、ハブ 2 B のボルト挿通孔 2 b に挿通される通しボルト B 3 とナット N により固定される。さらに、ハブ 2 B の上下面には、ボルト B 3 およびナット N を覆い隠すためのキャップ 2 c が取り付けられる。

一方、上弦材 1 0 A を構成するハブ 2 A には、その上面にブラケット 1 1 が取り付けられるので（図 4 参照）、下面のみにワッシャ 2 d を取り付ける。

【 0 0 3 0 】

連結材 3 は、図 7（a）（b）に示すフレーム材 1 と同様に、アルミニウム合金製の中空押出型材を加工したものであり、その両端に偏平状の接続端部 3 a を有している。また、接続端部 3 a の先端には、フレーム材 1 の接続端部 1 a と同一断面形状の凹凸が形成され、ハブ 2 の接続溝 2 a に嵌合可能である。

【 0 0 3 1 】

ラチス材 4 は、フレーム材 1 と同様に、アルミニウム合金製の中空押出型材を加工したものであり、図 7（c）（d）に示すように、その両端に偏平状の接続端部 4 a を有している。また、接続端部 4 a の先端には、凹凸が形成されているが、その方向は、ラチス材 4 の軸線に対して角度 α （以下、コイン角 α とする）をなす方向である。なお、接続端部 4 a の断面形状は、フレーム材 1 の接続端部

1 a の断面形状と同一であり、したがって、ハブ 2 の接続溝 2 a に圧入嵌合することができる。また、ラチス材 4 は、その軸線方向がハブ 2 の軸線方向に対してコイン角 α だけ傾斜した状態でハブ 2 に接続される。

【0032】

(ブラケット)

上弦材 10 A, 10 A に取り付けられるブラケット 11 は、断面多角形状のアルミニウム合金製の中空押出型材からなり、図 11 (a) (b) に示すように、その上面に踏板 12 を支持する踏板支持面 11 a を有するとともに、その下面に取付面 11 b を有し、上弦材 10 A のハブ 2 A の上面に取り付けられる。

取付面 11 b は、踏板支持面 11 a に対して階段勾配で傾斜しており、すなわち、取付面 11 b をハブ 2 A の上面に取り付けると、踏板支持面 11 a は水平になる (図 4 参照)。

また、ブラケット 11 の開口部には、これを覆い隠す蓋材 11 c が取り付けられる (図 4 参照)。

【0033】

(踏板)

踏板 12 は、木製や金属製などの板材からなり、図 10 (a) (b) に示すように、ブラケット 11 の踏板支持面 11 a に支持固定される。また、本実施形態では、踏板 12 の内部にボルト B 2 を螺合させるためのプレート 12 a が埋め込まれている。

【0034】

(サポートシュー)

サポートシュー S 1 は、図 12 (a) に示すように、階下の床面 F 1 に当接する床面当接面 S 1 1 と、ハブ 2 A の下面に当接するハブ当接面 S 1 2 と、ハブ 2 A の位置決め及びズレ止めとなる係止片 S 1 3 とを有し、図 4 に示すように、上弦材 10 A の下端に位置するハブ 2 A の下面と階下の床面 F 1 との間に介設される。また、ハブ当接面 S 1 2 は、床面当接面 S 1 1 に対して階段勾配で傾斜している。

【0035】

サポートシュー S2 は、図 12 (b) に示すように、階下の床面 F1 に当接する床面当接面 S21 と、ハブ 2B の下面に当接するハブ当接面 S22 と、ハブ 2B の位置決め及びズレ止めとなる係止片 S23 とを有し、図 4 に示すように、下弦材 10B の下端に位置するハブ 2B の下面と階下の床面 F1 との間に介設される。また、ハブ当接面 S22 は、床面当接面 S21 に対して階段勾配で傾斜している。

【0036】

サポートシュー S3 は、図 12 (c) に示すように、階上の床面を支持する梁材 F21 の側面に当接する梁材当接面 S31 と、ハブ 2A の下面に当接するハブ当接面 S32 と、ハブ 2A の位置決め及びズレ止めとなる係止片 S33 とを有し、図 4 に示すように、上弦材 10A の上端に位置するハブ 2A の下面と梁材 F21 の側面との間に介設される。また、ハブ当接面 S32 は、梁材当接面 S31 に対して階段勾配で傾斜している。

【0037】

サポートシュー S1, S2, S3 は、アルミニウム合金製の押出型材からなる。なお、各サポートシューの形状は、図示の形状に限定されることはなく、階段の設置箇所の状況に応じて適宜変更してよい。

【0038】

(階段の構築手順)

次に、本発明の第 1 の実施形態に係る階段の構築手順を図 3 乃至図 6, 図 8 および図 10 を参照して説明する。

【0039】

まず、立体トラス構造体 10 の構築手順について説明する。立体トラス構造体 10 を構築するには、図 5 に示すように、フレーム材 1、連結材 3 およびラチス材 4 をハブ 2A に、フレーム材 1 およびラチス材 4 をハブ 2B にそれぞれ接続すればよい。

図 6 (a) (b) を参照して、立体トラス構造体 10 の構築手順をより詳細に説明する。まず、下弦材 10B を構成するハブ 2B に四本のラチス材 4 を 90 度ピッチで接続する。このようなユニットを複数個組み立て、それらを一直線に並

べた後に、互いに隣接するハブ 2 B, 2 B にフレーム材 1 を順次接続して下弦材 1 0 B を構成し、さらに、隣接するラチス材 4, 4 の上端をハブ 2 A で連結する。そして、軸方向に隣接するハブ 2 A, 2 A にフレーム材 1 を接続して上弦材 1 0 A を構成するとともに、軸直角方向に隣接するハブ 2 A, 2 A に連結材 3 を接続して、二条の上弦材 1 0 A, 1 0 A を互いに連結する。

このように組み立てると、下弦材 1 0 B が上弦材 1 0 A, 1 0 A の中間の下方に位置することになり、したがって、立体トラス構造体 1 0 を軸方向から観ると逆三角形になる（図 1 0 (b) 参照）。また、立体トラス構造体 1 0 を側面視するとワーレントラス形状になる（図 3 参照）。

なお、立体トラス構造体 1 0 の組立手順は、前記した手順に限らず、適宜変更可能である。

【 0 0 4 0 】

立体トラス構造体 1 0 を構築したら、図 4 に示すように、ブラケット 1 1 を上弦材 1 0 A のハブ 2 A の上面に載置するとともに、ハブ 2 A の下面側から通しボルト B 1 をボルト挿通孔 2 b に挿通して、ブラケット 1 1 をハブ 2 A の上面に固定する。なお、ハブ 2 A の下面側には、抜止め用のワッシャ 2 d（図 8 参照）が取り付けられる。

また、図 8 に示すように、下弦材 1 0 B のハブ 2 B の上下面に、フレーム材 1 およびラチス材 4 の抜出しを防止するためのワッシャ 2 d を取り付け、通しボルト B 3 およびナット N で固定する。さらに、キャップ 2 c で通しボルト B 3 およびナット N を覆い隠す。

【 0 0 4 1 】

次に、立体トラス構造体 1 0 を、階下の床板 F 1 と階上の梁材 F 2 1 との間に架設する（図 3 参照）。このとき、上弦材 1 0 A の下端に位置するハブ 2 A の下面と階下の床面 F 1 との間にサポートシュー S 1 を、下弦材 1 0 B の下端に位置するハブ 2 B の下面と階下の床面 F 1 との間にサポートシュー S 2 をそれぞれ介設するとともに、上弦材 1 0 A の上端に位置するハブ 2 A と階上の梁材 F 2 1 の側面との間にサポートシュー S 3 を介設する。

また、立体トラス構造体 1 0 を所定の階段勾配で設置すると、ブラケット 1 1

の踏板支持面 1 1 a は水平になる。

【 0 0 4 2 】

そして、踏板支持面 1 1 a に踏板 1 2 を載置するとともに、ボルト B 2 をブラケット 1 1 の内部から踏板 1 2 に埋め込まれたプレート 1 2 a に螺合して、ブラケット 1 1 と踏板 1 2 とを固定する。また、図 1 0 (a) (b) に示すように、踏板 1 2 の側端を壁面 W に取り付けられた受材 1 3 に固定する。

【 0 0 4 3 】

最後に、踏板 1 2 の側端に手摺 1 5 を取り付けて、階段の構築が完了する。

【 0 0 4 4 】

このように、所定の寸法・形状に形成された各部材を適宜嵌合あるいはボルト接合するだけで階段を構築することができる。すなわち、施工現場で複雑な加工を行う必要がなく、また、特別な工具や溶接も必要としないので、熟練工でなくとも容易に階段を構築することができる。

【 0 0 4 5 】

また、立体トラス構造体 1 0 を中桁としたので、溝形鋼や I 形鋼のような重厚な部材を用いる従来の階段に比べて軽構造になり、施工時の取り扱いが容易になる。特に、立体トラス構造体 1 0 やブラケット 1 1 などアルミニウム合金製とすることで、強度の割に軽量で、腐食しにくいというアルミニウム合金のメリットを活かし、より軽構造の階段を構築することが可能で、従来の木造住宅の床面構造にそのまま適用することもできる。

【 0 0 4 6 】

さらに、上弦材 1 0 A および下弦材 1 0 B は、連結するフレーム材 1 の数を増減させることにより、容易に階段全体の長さ（段数）を調節することが可能である。また、階段勾配の異なる場合には、ブラケット 1 1 を階段勾配にあったものに交換するだけでよい。したがって、フレーム材 1、ハブ 2、連結材 3、ラチス材 4 の寸法・形状を変えなくとも、段数や勾配の異なる階段を構築することが可能で、すなわち、立体トラス構造体 1 0 を構成する各部材を量産しておくことができるので、生産効率が向上する。

【 0 0 4 7 】

また、踏板12の中央を支持するので、踏板12に生じる撓みが小さい。本実施形態では、踏板12の側端を壁面Wに固定するので、踏板12の安定性がより一層向上するとともに、踏板12の側方に壁面Wが位置するので、階段の歩行者に安心感を与える。

【0048】

また、立体トラス構造体10は、上弦材10Aが二条であるのに対し、下弦材10Bが一条であり、すなわち、階段正面方向から観ると逆三角形に形成されているので（図10（b）参照）、すっきりとした外観であり、さらに、トラス構造であるが故に、軽やかで開放感があり、必要以上に視界を妨げることもないので、圧迫感のない明るく清潔な居室内空間を創出することができる。

【0049】

なお、前記した階段の構築手順は一例であり、適宜変更しても差し支えない。また、立体トラス構造体10は、工場で予め組み立ててもよく、階段の設置場所にて組み立ててもよい。いずれの場合でも、予め所定の形状・寸法に形成された前記の各部材を組み合わせるだけで、容易にかつ正確に立体トラス構造体を構築することができる。

【0050】

次に、本発明の第2の実施形態に係る階段を、図13乃至図16を参照して詳細に説明する。なお、第1の実施形態に係る階段と同一の要素には、同一の符号を付し、重複する説明は省略する。

【0051】

図13は本発明の第2の実施形態に係る階段の分解斜視図、図14（a）は本発明の第2実施形態に係る階段を構成する立体トラス構造体の上弦材および連結材の配置を示す平面図、図14（b）は同じく下弦材およびラチス材の配置を示す平面図、図14（c）は立体トラス構造体の側面図、図15は本発明の第2の実施形態に係る階段の側面図、図16は図15の拡大側面図である。また、図14（a）は図15のX5-X5矢視図であり、図14（b）は図15のX6-X6矢視図である。

【0052】

図 1 3 乃至図 1 6 に示すように、本発明の第 2 の実施形態に係る階段は、立体トラス構造体 2 0 を中桁とした階段であり、階段勾配で傾斜する立体トラス構造体 2 0 と、ブラケット 1 1 を介して立体トラス構造体 2 0 に支持される踏板 1 2 とから構成される。また、図 1 5 および図 1 6 に示すように、立体トラス構造体 2 0 は、その下端に取り付けられたサポートシュー S 1, S 2 を介して階下の床面 F 1 に固定され、上端に取り付けられたサポートシュー S 3 を介して階上の床面 F 2 を支持する梁材 F 2 1 に固定されている。また、本実施形態では、左右両側端に手摺 1 5 が取り付けられている。なお、ブラケット 1 1、踏板 1 2 および手摺 1 5 は、第 1 の実施形態で説明したものと同様の構成であるので、詳細な説明は省略する。

【 0 0 5 3 】

(立体トラス構造体)

立体トラス構造体 2 0 は、図 1 3 および図 1 4 に示すように、互いに平行な二条の上弦材 2 0 A, 2 0 A と、上弦材 2 0 A, 2 0 A を互いに連結する連結材 3 および連結斜材 5 と、上弦材 2 0 A, 2 0 A の中間の下方に位置する一条の下弦材 2 0 B と、上弦材 2 0 A, 2 0 A と下弦材 2 0 B とを互いに連結するラチス材 4 とから構成される。

【 0 0 5 4 】

上弦材 2 0 A, 2 0 A は、それぞれ節点部材たるハブ 2 2 A により連結された複数のフレーム材 1 により構成され、下弦材 2 0 B は、ハブ 2 2 B により連結された複数のフレーム材 1 により構成されている。なお、フレーム材 1、連結材 3、ラチス材 4 は、第 1 の実施形態で説明したものと同様の構成であるので、詳細な説明は省略する。

【 0 0 5 5 】

連結斜材 5 は、図 7 (a) (b) に示すフレーム材 1 と同様に、アルミニウム合金製の中空押出形材を加工したものであり、その両端に偏平状の接続端部を有している。また、接続端部の先端には、フレーム材 1 の接続端部 1 a と同一断面形状の凹凸が形成され、ハブ 2 2 A の接続溝に嵌合可能である。また、連結材 3 が上弦材 2 0 A, 2 0 A に直交しているのに対し、連結斜材 5 は上弦材 2 0 A,

20Aに斜交している。すなわち、図14(a)に示すように、立体トラス構造体20の上面には、上弦材20Aを構成するフレーム材1と左右の上弦材20Aを連結する連結材3とにより四角形の枠体が形成されるが、連結斜材5は、この枠体の対角線上に千鳥状に配置されることになる。

【0056】

ハブ22A, 22Bは、図8に示すハブ2と同様の構成であるが、フレーム材1、連結材3、ラチス材4又は連結斜材5が接続される方向にのみ、その外周面に接続溝（第1の実施形態で説明した接続溝2aと同一の構成）が形成されている。このような構成とすると、不必要な接続溝が露出しないので、溝埋部材2e（図8参照）が不要になり、すっきりとした外観を得ることができる。

また、図14(a)(b)に示すように、ラチス材4と連結斜材5とが平面視して同一の方向に配置されるが、この場合には、上弦材20Aを構成するハブ22Aに長尺の物を使用し（図14(c)参照）、同一の接続溝にラチス材4と連結斜材5とを順々に接続する。

【0057】

このように、立体トラス構造体20の上面においてフレーム材1と連結材3とで形成される枠体の対角線上に連結斜材5を配置すると、立体トラス構造体20のねじり剛性や曲げ剛性（特に左右方向）が格段に向上するので、これら枠体のせん断変形が抑制される。すなわち、階段昇降時の偏荷重に起因して立体トラス構造体20に発生するねじれや横揺れが大幅に抑制される。

【0058】

（サポートシュー）

図16に示すように、立体トラス構造体20は、その下端がサポートシューS1, S2を介して階下の床面F1に固定され、上端がサポートシューS3を介して階上の床面F2を支持する梁材F21に固定されている。図16に示すサポートシューS1, S2, S3は、図12に示すサポートシューと全体形状は異なるものの、その要部は同様の構成である。

すなわち、サポートシューS1は、ハブ22Aの下面に当接するハブ当接面と階下の床面F1に当接する床面当接面とを有し、サポートシューS2は、ハブ2

2 B の下面に当接するハブ当接面と階下の床面 F 1 に当接する床面当接面とを有する。また、サポートシュー S 3 は、ハブ 2 2 A の下面に当接するハブ当接面と階上の床面を支持する梁材 F 2 1 の側面に当接する梁材当接面とを有する。また、各ハブ当接面は、階段勾配で傾斜している。

【 0 0 5 9 】

以上説明した第 2 の実施形態に係る階段は、第 1 の実施形態に係る階段と同様に、すっきりとした外観で、軽やかで開放感があり、必要以上に視界を妨げることもないので、圧迫感のない明るく清潔な居室内空間を創出することができる。さらに、立体トラス構造体 2 0 のねじり剛性および曲げ剛性（特に左右方向）が高いので、階段昇降時にねじれや横揺れが発生しない。すなわち、踏板 1 2 を壁面に固定せずに、立体トラス構造体 2 0 だけで踏板 1 2 の安定性を確保することができるので、階段を自由に設置することができる。

【 0 0 6 0 】

なお、ブラケット 1 1 を構造材とみなす場合には、連結材 3 を省略し、連結斜材 5 のみで上弦材 2 0 A、2 0 A を連結してもよい。

【 0 0 6 1 】

【発明の効果】

本発明の階段によると、従来の階段に比べて軽構造で、軽快な印象を与えることができる。軽構造であるため施工時の取り扱いが容易になり、したがって、施工効率が向上する。また、階段の構築に際して、特別な工具や溶接を必要としないので、階段を容易に構築することができる。さらに、立体トラス構造体を構成する各部材の寸法・形状を変えなくとも、段数や勾配の異なる階段を構築することが可能で、すなわち、立体トラス構造体を構成する各部材を量産しておくことができるので、生産効率が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の第 1 の実施形態に係る階段の全体を示す斜視図である。

【図 2】 同じく正面図である。

【図 3】 同じく側面図である。

【図 4】 図 3 の拡大側面図である。

【図 5】 本発明の第 1 の実施形態に係る階段の分解斜視図である。

【図 6】 (a) は図 3 の X 1 - X 1 矢視図、(b) は (a) の X 2 - X 2 矢視図である。

【図 7】 (a) はフレーム材および連結材を示す斜視図、(b) は同じく平面図、(c) はラチス材を示す斜視図、(d) は同じく平面図である。

【図 8】 節点部材 (ハブ) を説明する斜視図である。

【図 9】 同じく平面図である。

【図 1 0】 (a) は図 3 の X 3 - X 3 断面図、(b) は図 3 の X 4 - X 4 矢視図である。

【図 1 1】 (a) はブラケットを示す斜視図、(b) は同じく側面図である。

【図 1 2】 (a) (b) (c) はサポートシユの側面図である。

【図 1 3】 本発明の第 2 の実施形態に係る階段の分解斜視図である。

【図 1 4】 (a) は本発明の第 2 実施形態に係る階段を構成する立体トラス構造体の上弦材および連結材の配置を示す平面図、(b) は同じく下弦材およびラチス材の配置を示す平面図、(c) は立体トラス構造体の側面図である。

【図 1 5】 本発明の第 2 の実施形態に係る階段の側面図である。

【図 1 6】 図 1 5 の拡大側面図である。

【符号の説明】

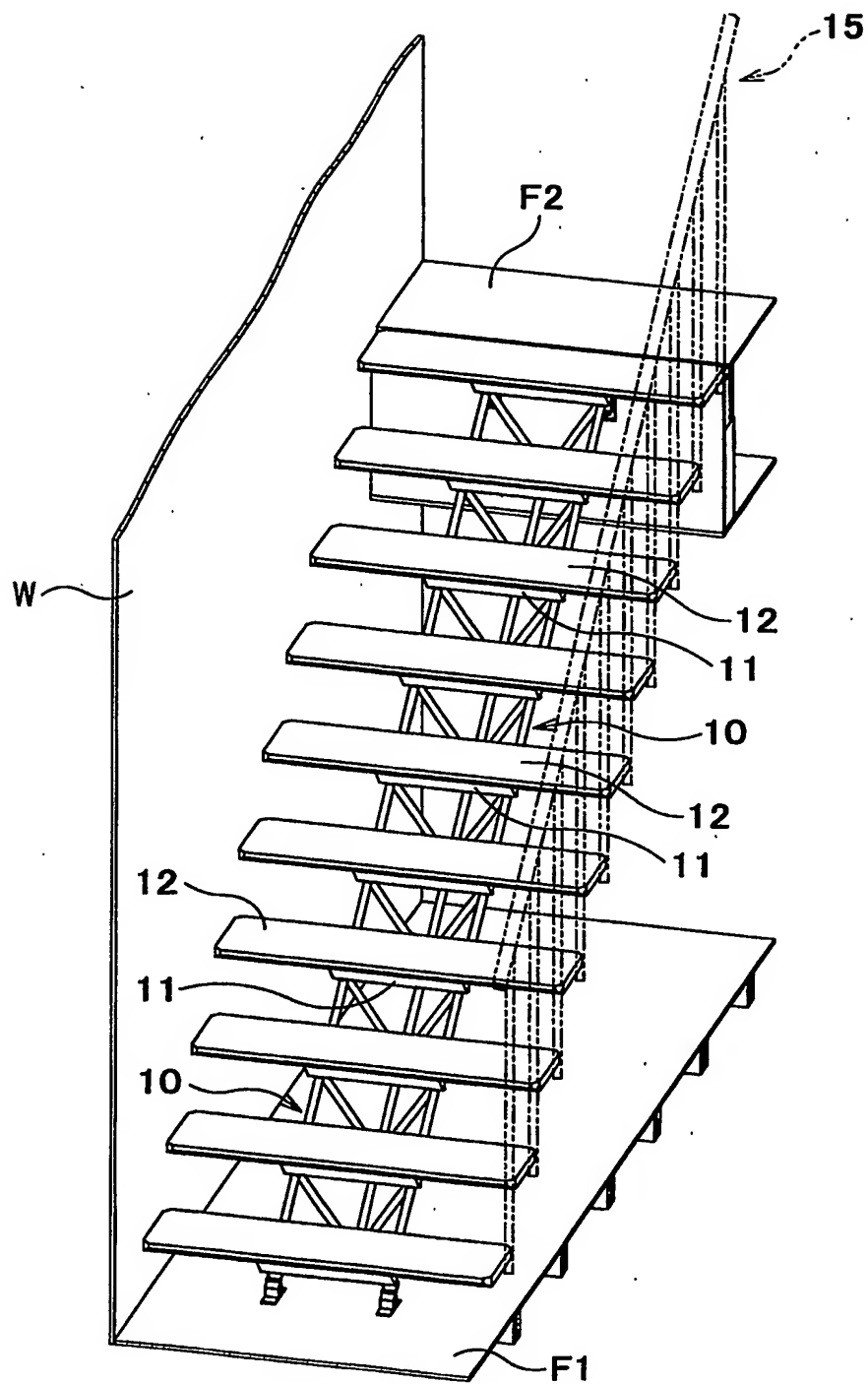
- 1 0 立体トラス構造体
- 1 0 A 上弦材
- 1 0 B 下弦材
- 1 フレーム材
- 1 a 接続端部
- 2 A, 2 B ハブ (節点部材)
- 2 a 接続溝
- 3 連結材
- 3 a 接続端部
- 4 ラチス材

4 a	接続端部	
5	連結斜材	
1 1	ブラケット	
1 1 a	踏板支持面	
1 1 b	取付面	
1 2	踏板	
1 3	受材	
1 5	手摺	
S 1, S 2, S 3	サポートシュー	
F 1	階下床面	
F 2	階上床面	
W	壁面	

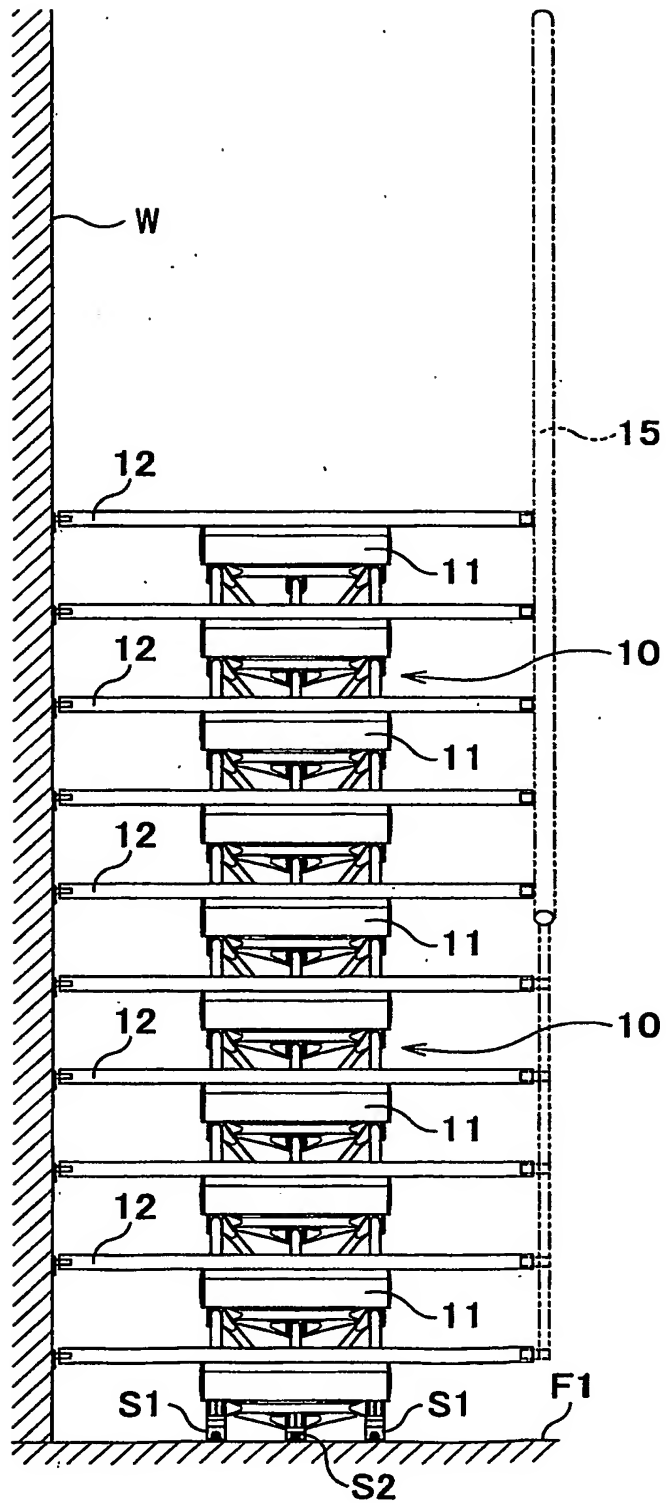
【書類名】

図面

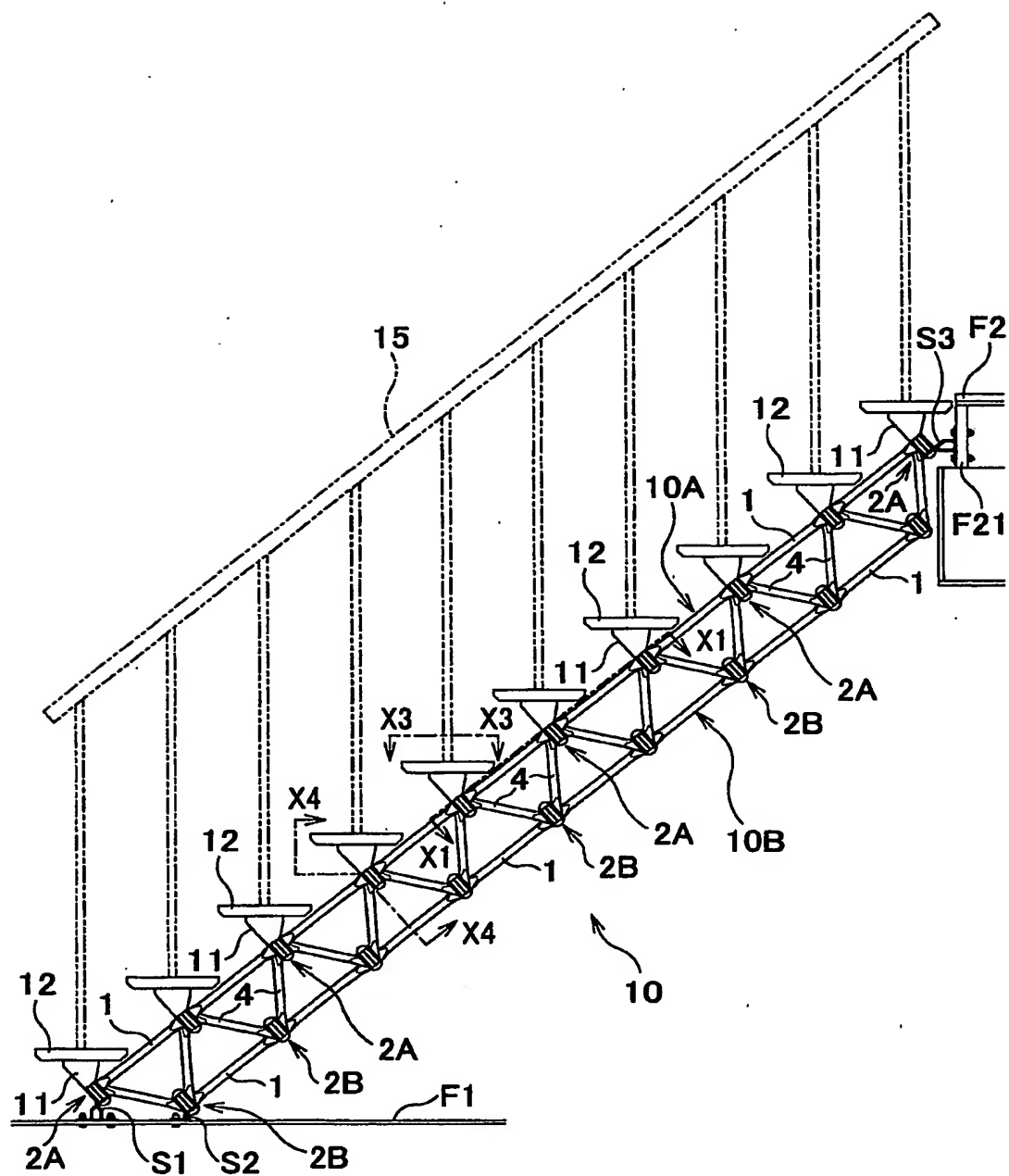
【図 1】



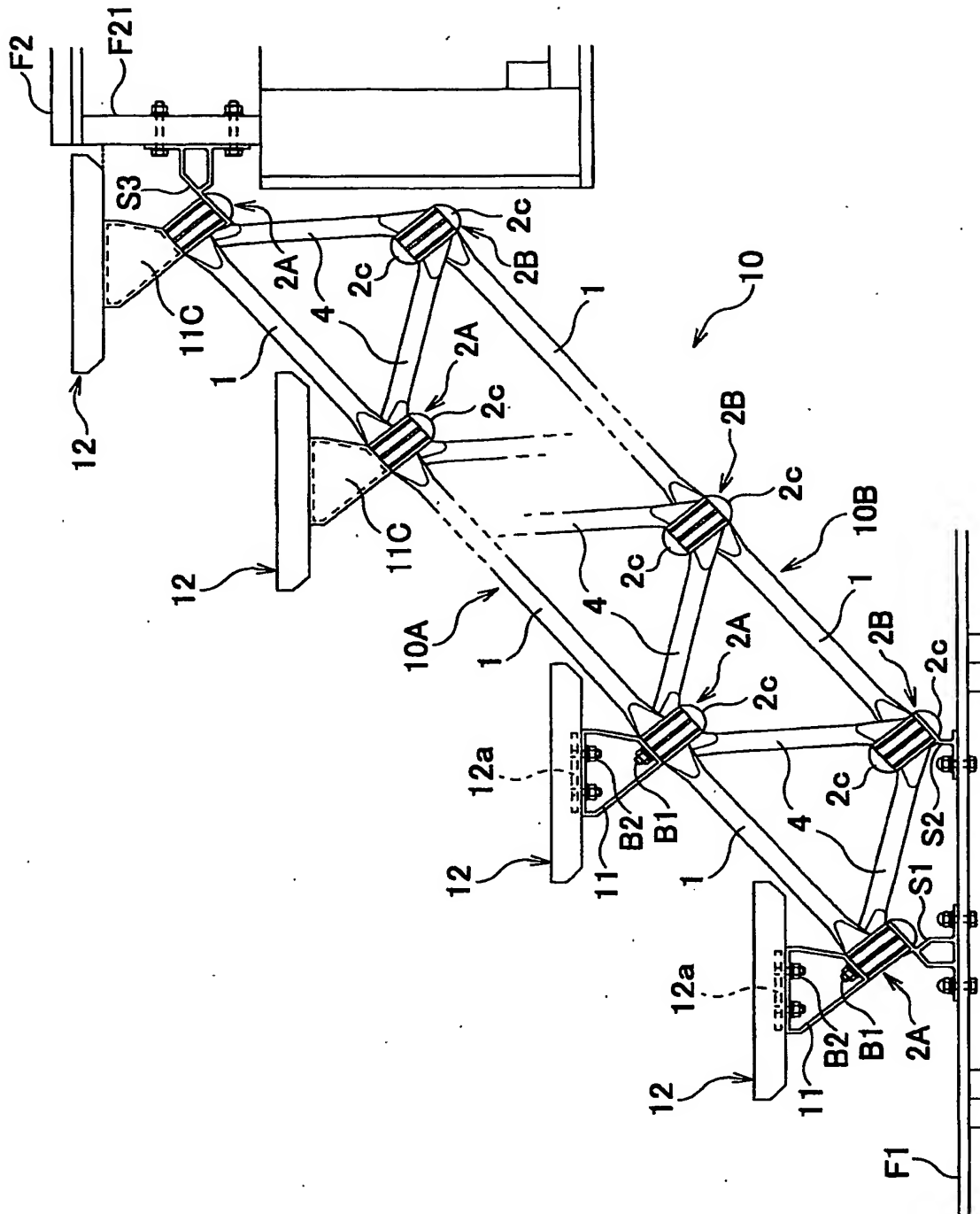
【図2】



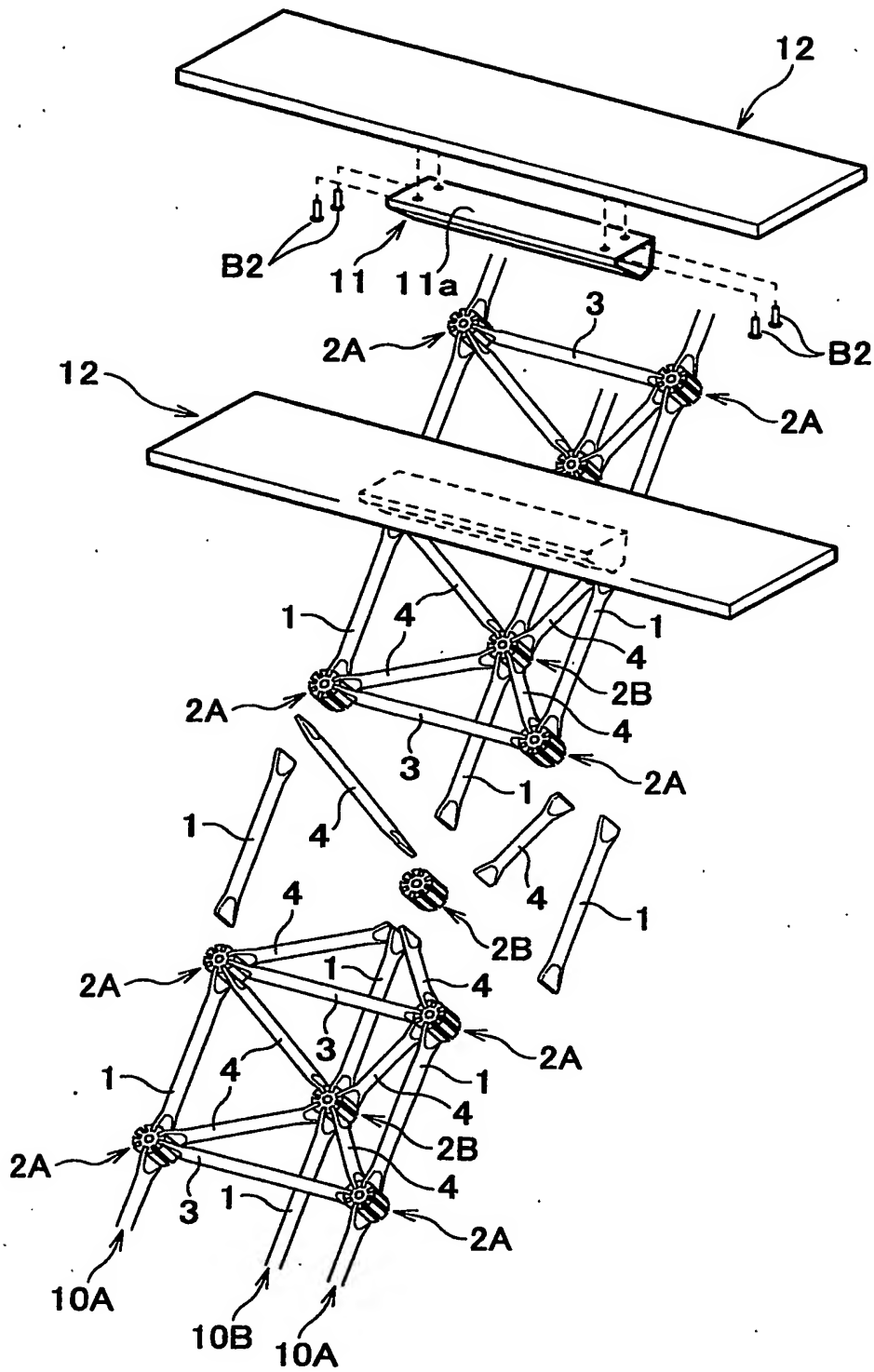
【図 3】



【図4】

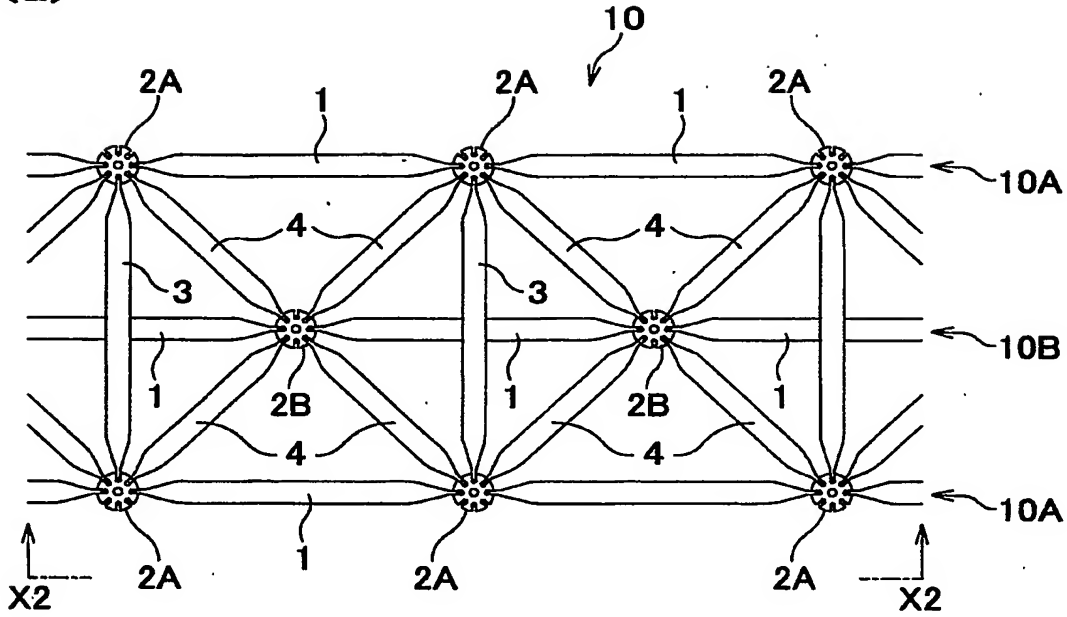


【図 5】

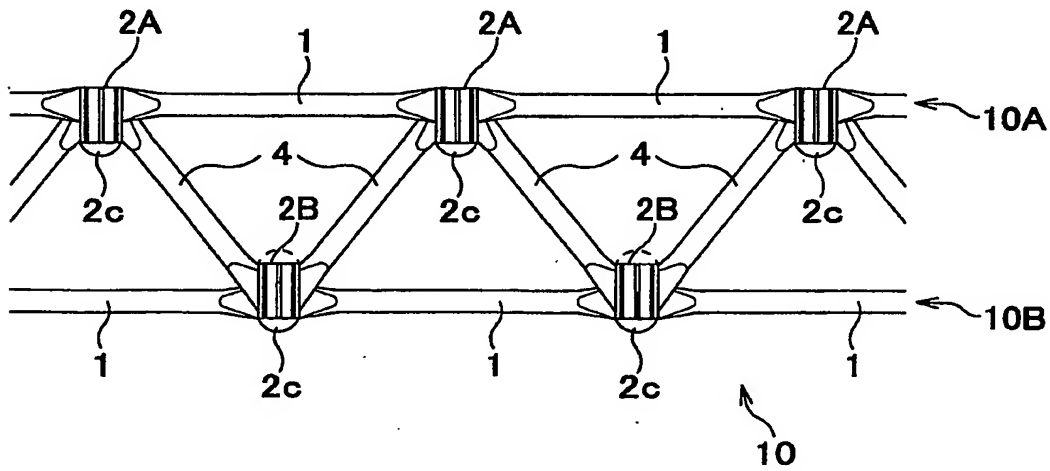


【図6】

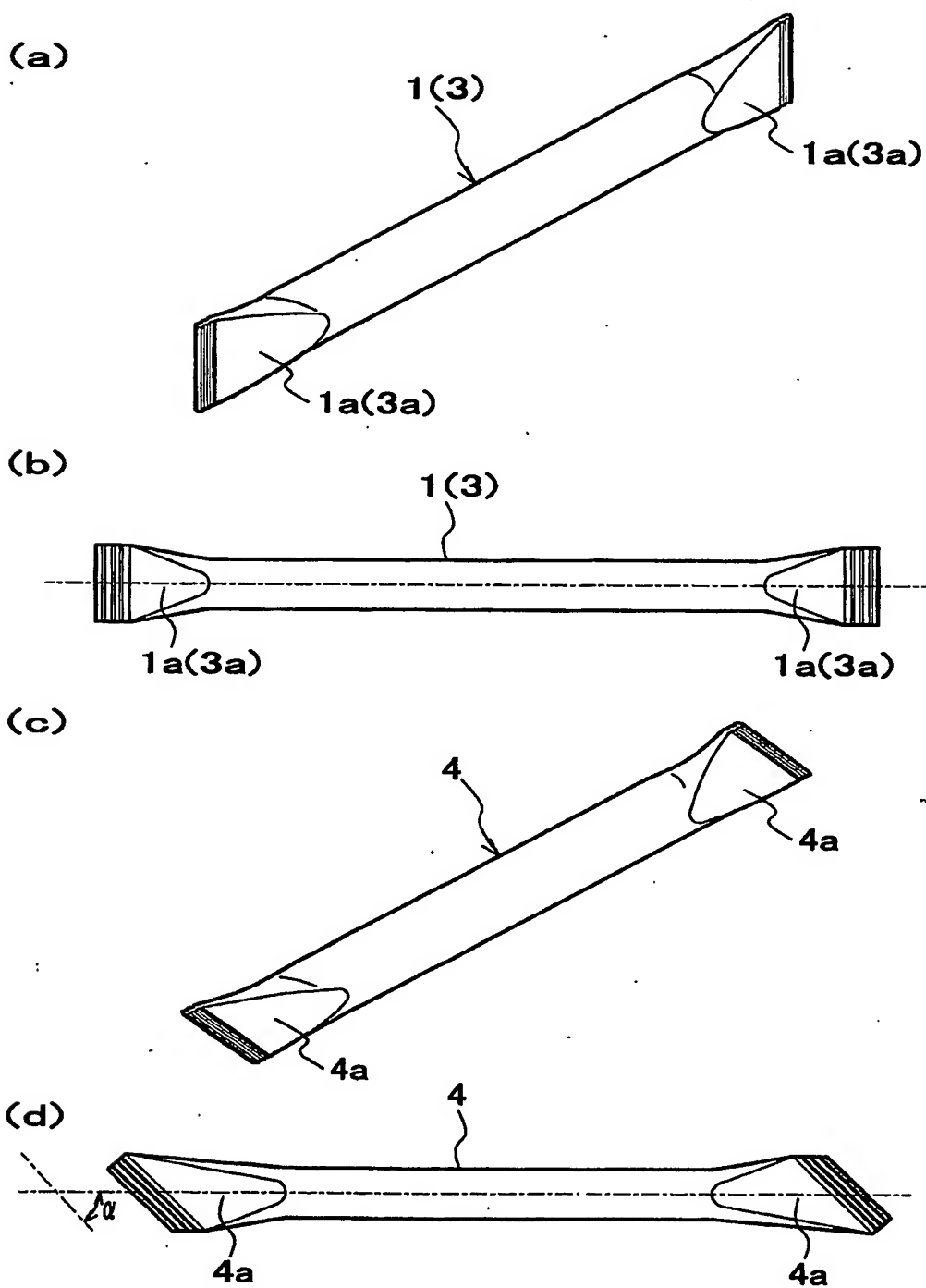
(a)



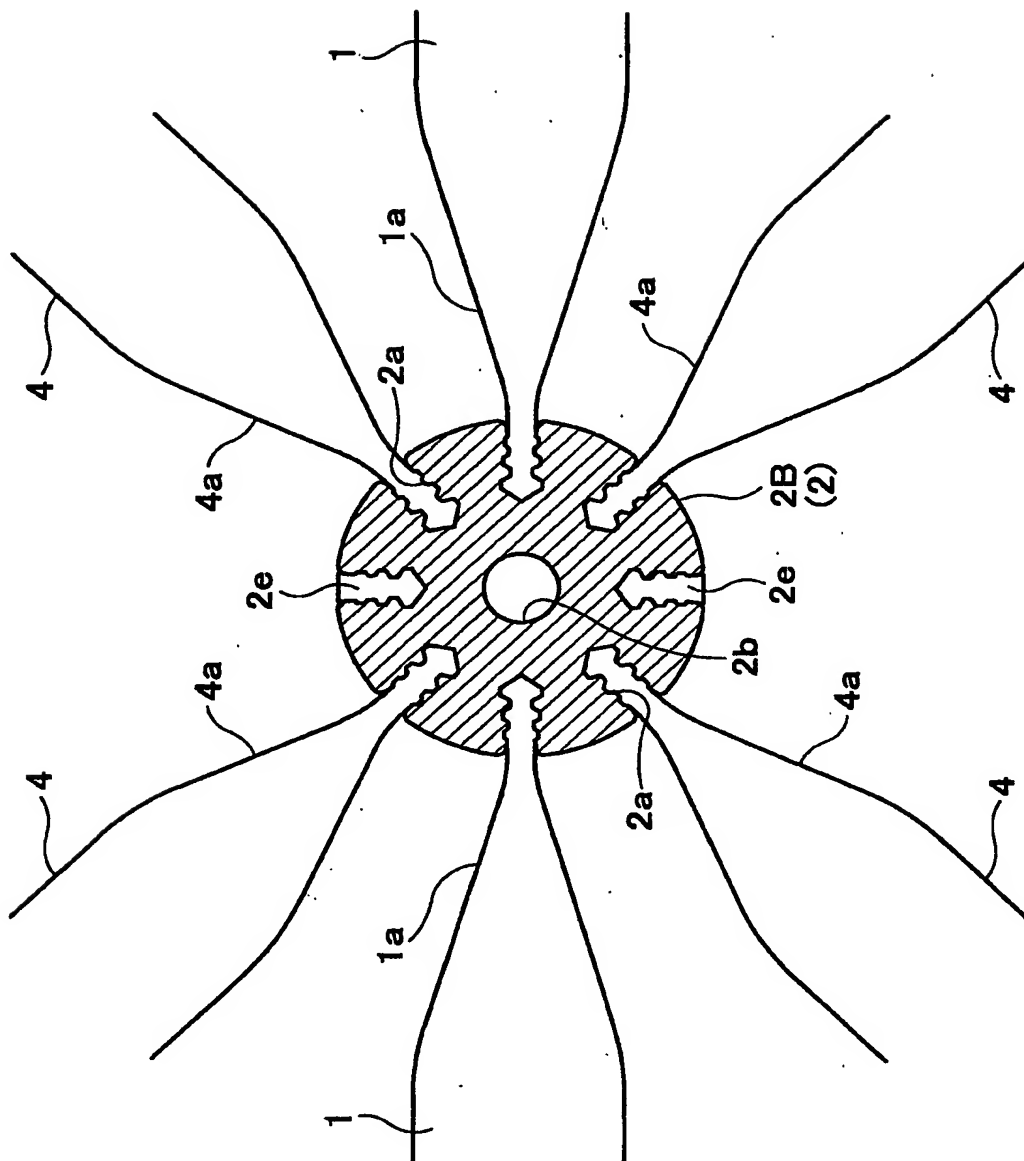
(b)



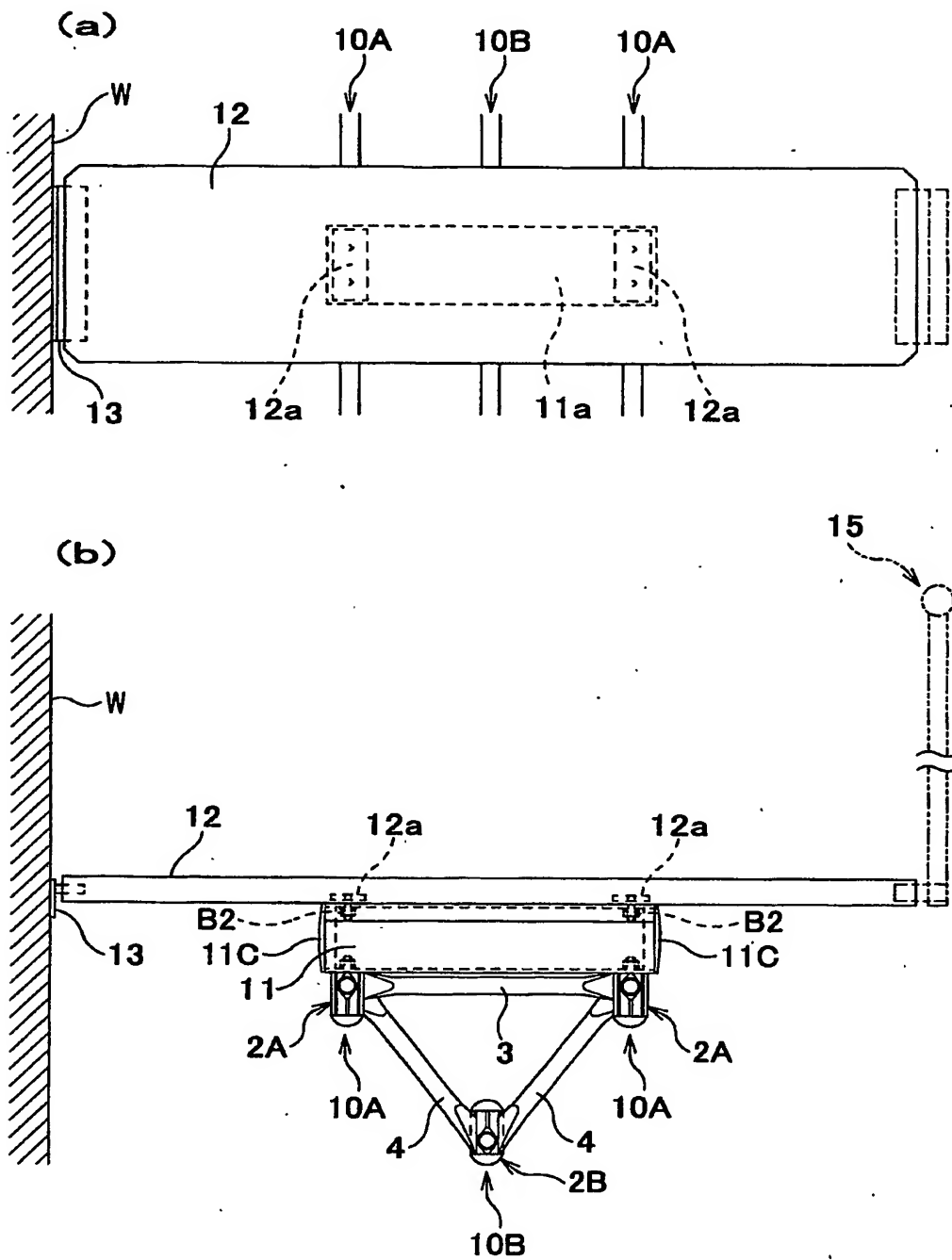
【図 7】



【図9】

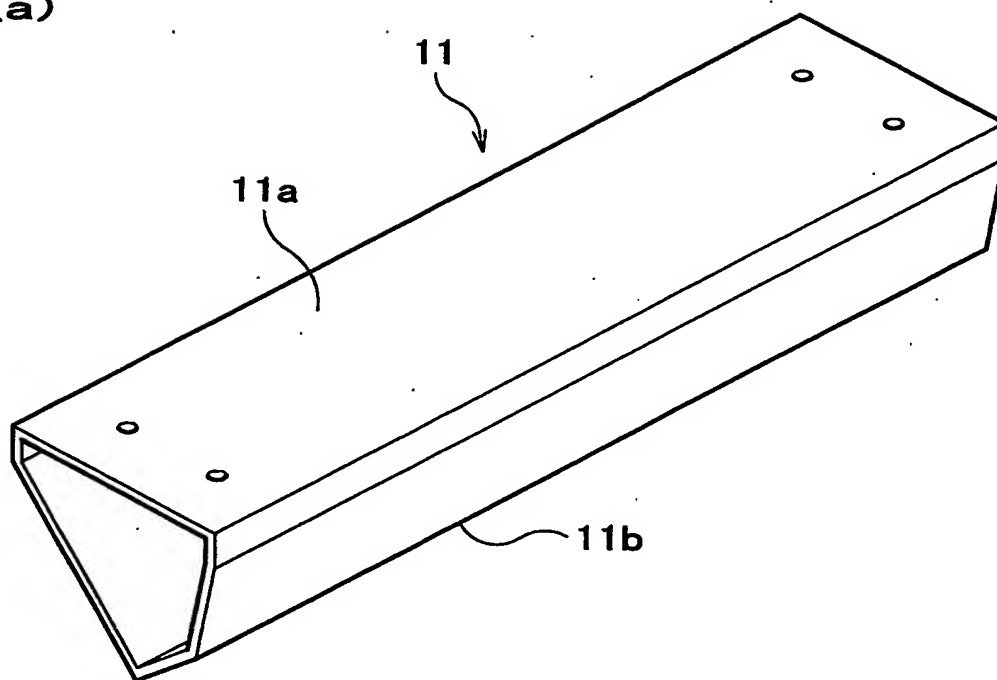


【図10】

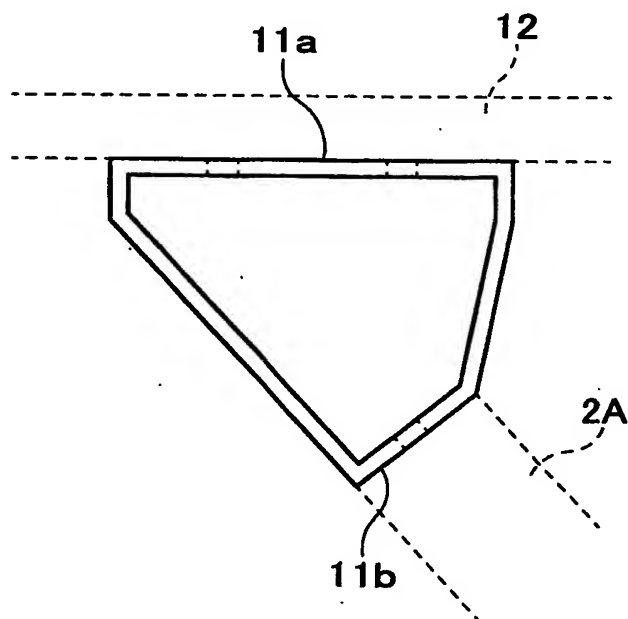


【図11】

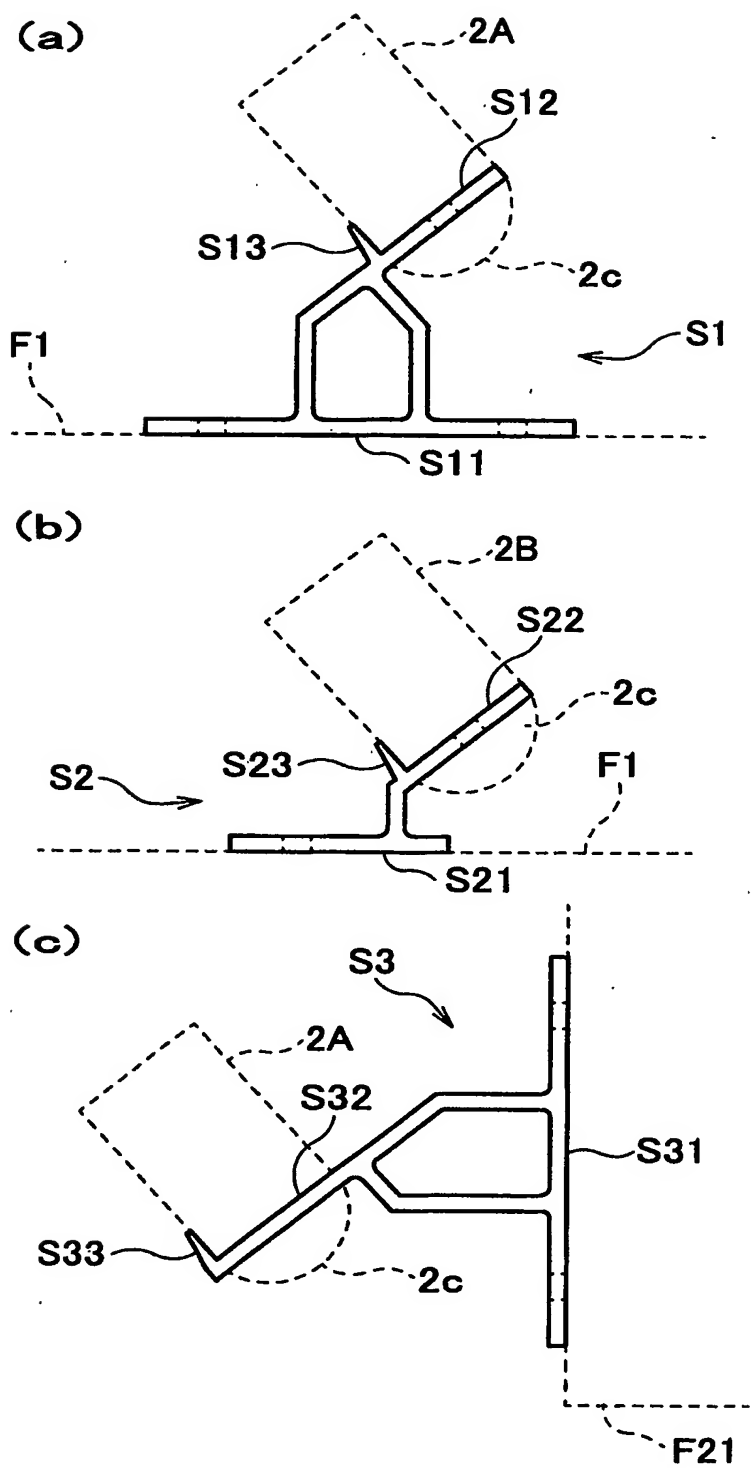
(a)



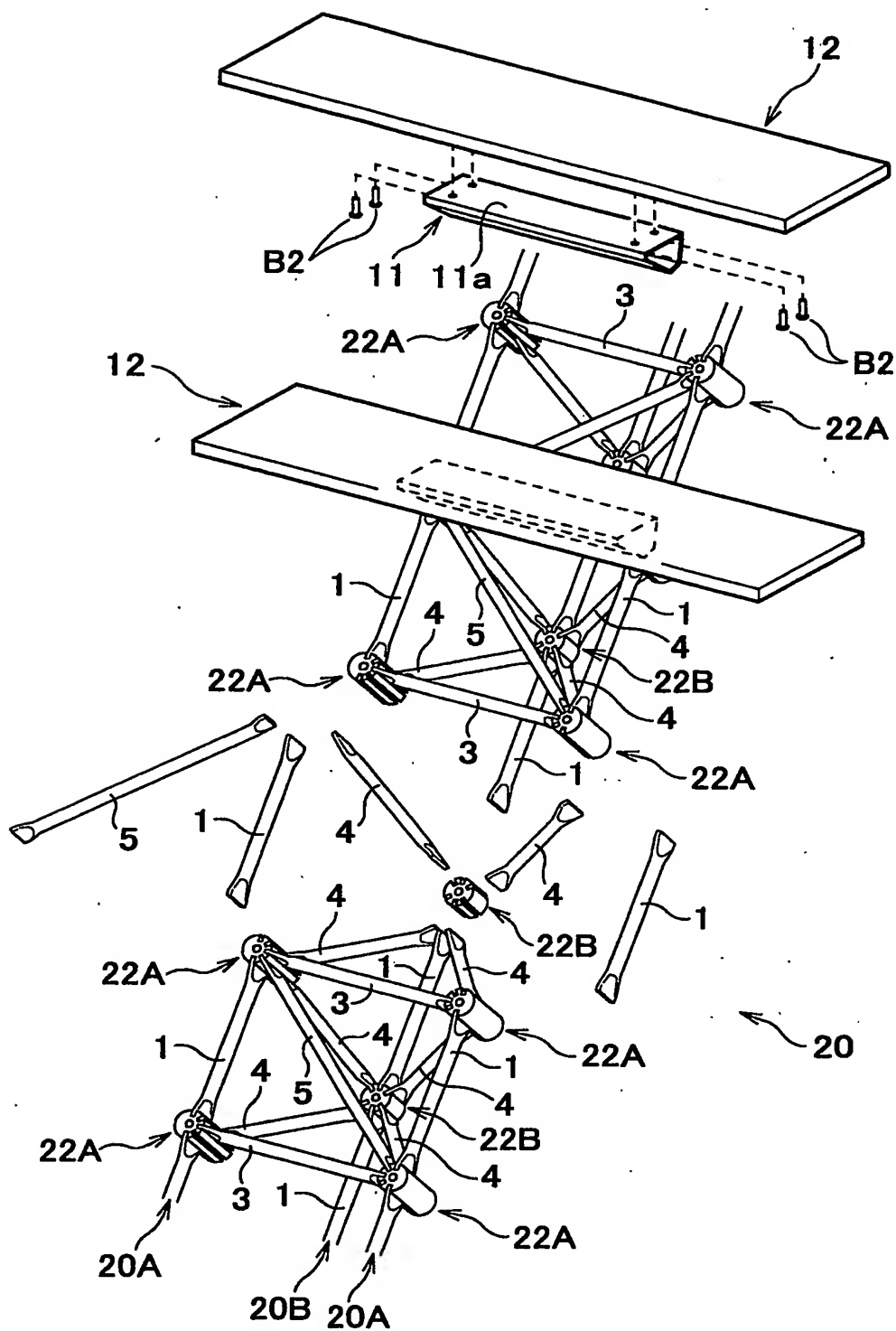
(b)



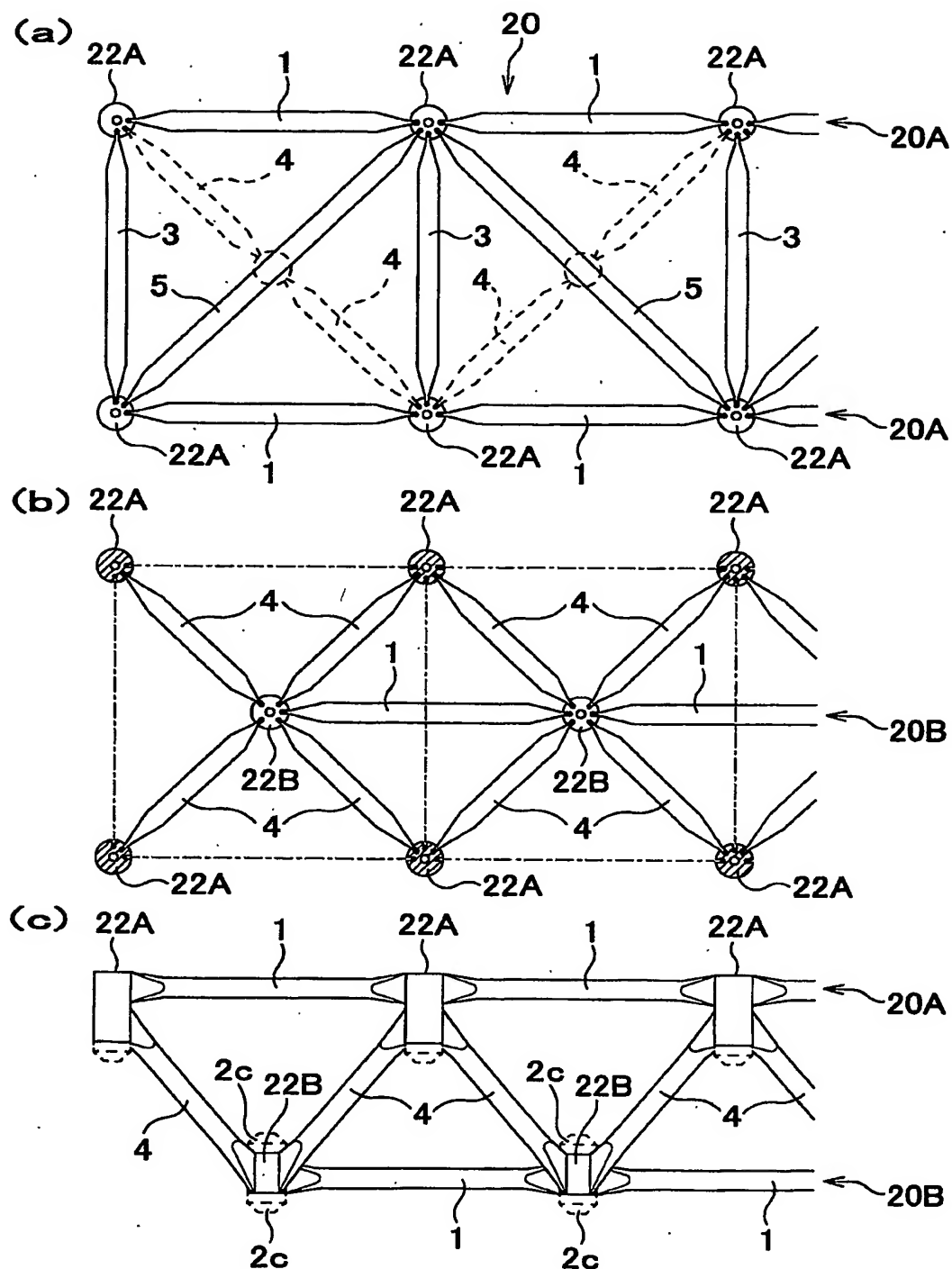
【図12】



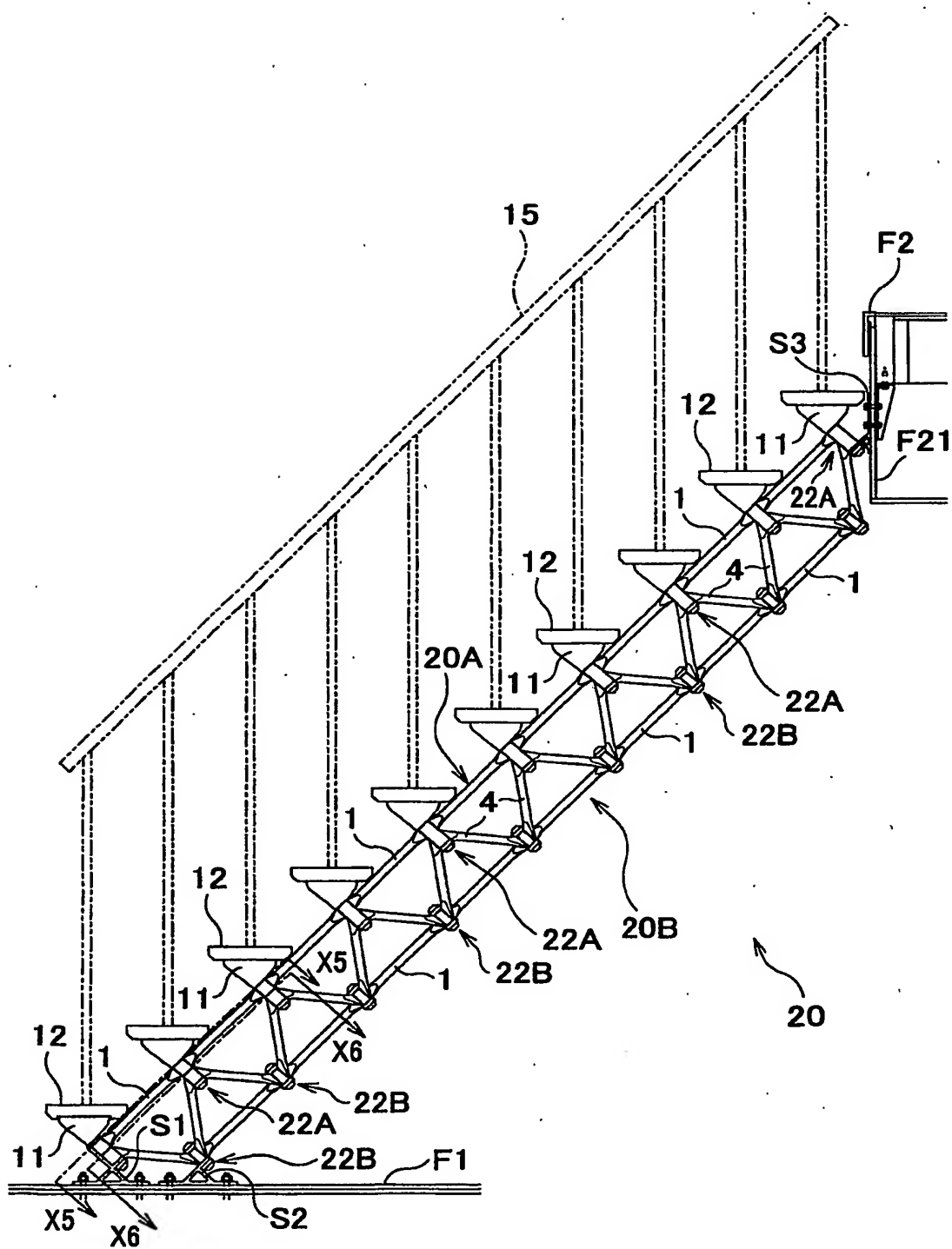
【図 13】



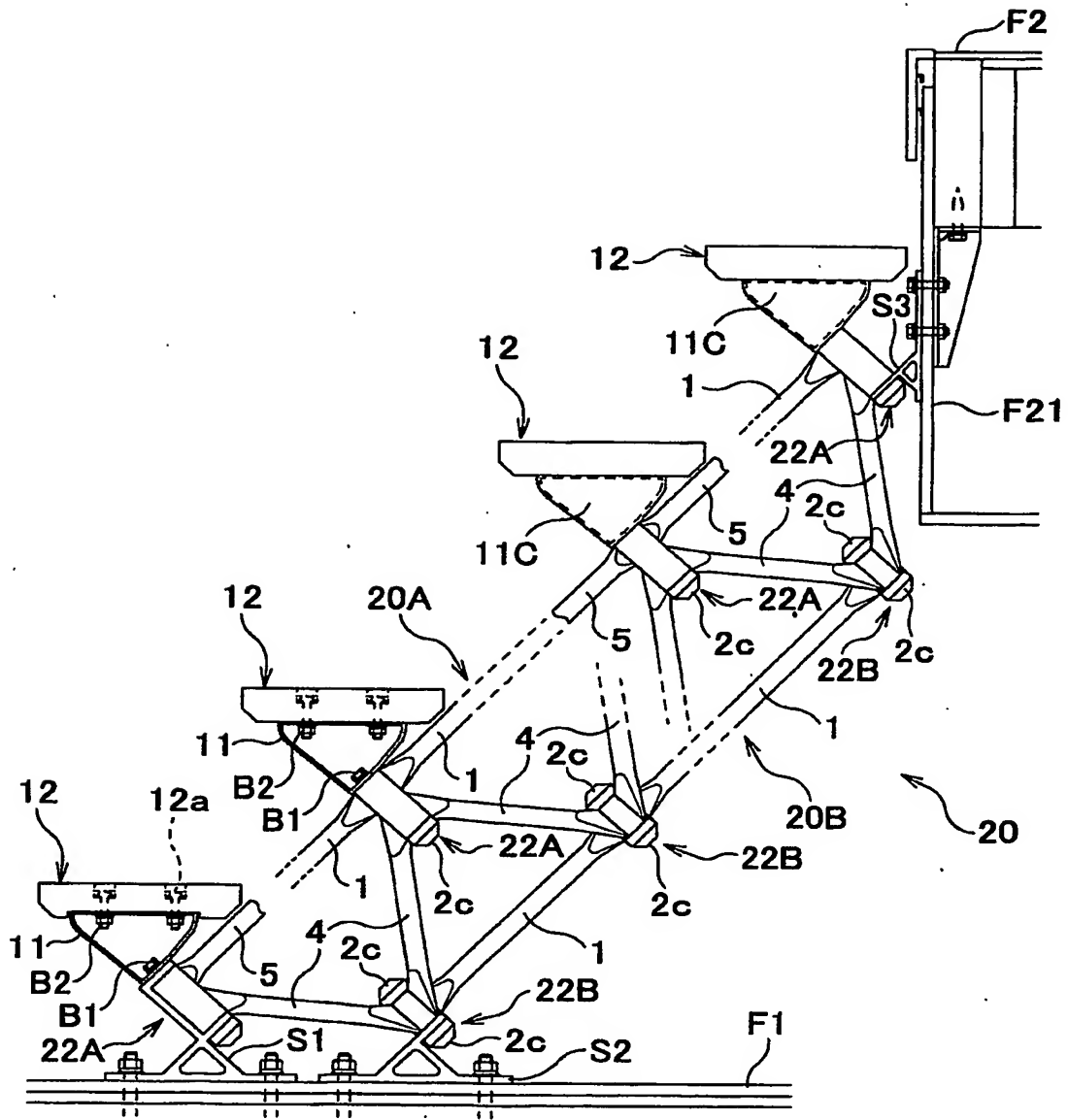
【図 14】



【図15】



【図 16】



【書類名】

要約書

【要約】

【課題】 軽構造で、軽快な印象を与えることができ、さらには、生産・施工効率のよい階段を提供すること。

【解決手段】 互いに平行な二条の上弦材 1 0 A、1 0 A と、上弦材 1 0 A、1 0 A を互いに連結する連結材 3 と、上弦材 1 0 A、1 0 A の中間の下方に位置する一条の下弦材 1 0 B と、上弦材 1 0 A、1 0 A と下弦材 1 0 B とを互いに連結するラチス材 4 とから構成される立体トラス構造体 1 0 で踏板 1 2 を支持する。また、それぞれ節点部材たるハブ 2 A により連結された複数のフレーム材 1 により上弦材 1 0 A、1 0 A を構成し、ハブ 2 B により連結された複数のフレーム材 1 により下弦材 1 0 B を構成する。

【選択図】

図 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004743]

1. 変更年月日	1996年 2月13日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都品川区東品川二丁目2番20号
氏 名	日本軽金属株式会社